

令和 7年度 (会派名) 政和会 調査報告書

1 調査年月日

令和 7 年 11 月4日 (火) ~6日 (木)

2 調査項目及び調査地

【調査項目】

- (1) 愛知県 豊田市 メタバースを活用した居場所作りについて、
- (2) 株式会社浅井農園 (三重県津市内) IT農業について
- (3) 兵庫県 西宮市 放課後キッズルーム事業について

【調査地】

- (1) 愛知県 豊田市
- (2) 株式会社浅井農園 (三重県津市内)
- (3) 兵庫県 西宮市

3 議員名

島田 泰美  
石田 武史  
高間 専逸  
野村 和宏  
芳賀 理己  
藤城 正興

4 調査報告書

別紙のとおり

5 その他

# 豊田市におけるメタバースの取り組みについて

2025年11月4日(火) 15時~16時

豊田市役所にて

## 【豊田市】

- ・ 愛知県全体の18%の面積を占める：918.47 km<sup>2</sup>
- ・ 平成17年に近隣6市町村と合併
- ・ 市域の7割を森林が占める：都市と山村の2面性を生かし環境だけでなく社会・経済にも統合的に取り組む。3つの重点分野①エネルギー②モビリティ③ウェルネス
- ・ 近郊都市部にも豊かな自然環境：ラムサール条約登録湿地
- ・ 豊かな自然、農産物、特産物も豊富
- ・ 市制74年目
- ・ 人口 男性：216,552人 女性：198,276人 総数：414,828人
- ・ 財政規模 令和7年度当初予算 2,197億円
- ・ 「クルマのまち」「ものづくりのまち」：2025年11月6日から9日にFIA世界ラリー選手権開催(3回目)、2024年4月26日に「みんなでつくりつづける博物館」オープン
- ・ 2018年6月15日SDGs未来都市に選定され、未来都市推進課が発足され、豊田市つながる社会実証推進協議会による推進

## 1. 豊田市のメタバースについて

### 【取り組み】

- ・ 将来的に重要な社会インフラになることを見据えて、メタバース将来ビジョンを策定(2023年)
- ・ 全国で唯一である政策分野横断的な「メタバースとよた」をオー

## ブン (2024 年)

### 【考え方】

- ・ 価値が発揮できそうな分野から挑戦する
- ・ 誰もがメタバースに触れられる環境をつくる
- ・ 中長期的な目標を持ち続けながら運用する

### 【活用方針】

- ・ 「豊田市メタバース共通基盤」を構築
- ・ 地域全体におけるメタバース活用を推進
- ・ 他自治体へのモデルとして推進
- ・ 試行的な実践を行いながら評価検証

地域全体でチャレンジできるメタバース→3～5年で判断

### 【メタバースとよた】

- ・ コンセプト：市民・企業・行政が実証実験等で主体的に活用可能
- ・ 特徴：国内最大級のプラットフォームに構築  
企業や団体へ無料で貸し出し  
目的や機能別に4つのエリアを構築
- ・ 活用例：悩みや課題を抱えた方等が気軽に相談できる場  
様々なテーマでの講演会やステージイベントの場  
→はじまりの広場：エントランス  
and カフェ：相談会など  
まなびの森：課外授業など  
つながるアリーナ：イベント利用

## 2. 策定までのながれ

将来ビジョンは、調査分析と合わせて、関係者への聞き取りやワークショップ、実証実験を行った上で、活用可能性を検証し、取りまとめをした。

調査分析・職員ヒアリング・豊田市つながる社会実証推進協議会との議論・職員向けワークショップ→実証実験及び全体評価→豊田市メタバース将来ビジョン、教育はともあれ観光で活用したいという考え

### 【実証実験の実施】

- ・ 2種類のメタバースを活用し、豊田市における課題に対するメタバースの有用性と活用可能性の検証を行った。以下2つの仮説検証を行った。
  - ①メタバースには豊田市の複数の社会課題を解決する可能性を秘めていること
  - ②メタバースの課題には解決策があること

### 【使用メタバース】

- ・ めっちゃバース：不登校児童生徒の家庭支援、採用支援、ひきこもり対策→対象者がスマートフォンなど手元の媒体から利用することのできる簡単なメタバースを使用し、「コミュニケーション」がカギとなる 複数の社会課題に対して、それぞれイベントや展示などを実施する。
- ・ VRChat：不登校児童生徒支援→対象者に専用機器(ゴーグル)を使用し没入感の高いメタバースを体験してもらい、PC やスマートフォンで利用した場合との違いを検証する。専用機器を使用する没入度の高いメタバースを運用する際の利用シーン想定や注意点などを抽出する。

## 【実証実験の結果】

### (ア) 豊田市先輩職員メタバーズ懇談会

- ・ 内容：豊田市に就職希望の学生等を対象に、メタバーズ上で豊田市の先輩職員との懇談会を開催する。実際に業務に携わっている先輩職員から業務のことを聞くことができる。メタバーズ上における自己開示の有用性を検証する。
- ・ 参加者：26名
- ・ 場所：豊田めっちゃバーズ
- ・ 良かった点：「顔を出さなかったため、緊張せずに質問しやすかった」「遠い場所からでも参加できたので日程の調整がしやすく便利だった」「アバターを介してリアクションすることで可愛らしさもあり、堅苦しいと思いがちな説明会でも場が和んで楽しくのびのびと参加することができた」といった声がきかれた。
- ・ 改善点：音声の乱れがあった、また話者に対して理解を示すために、「うなずき」といった反応がメタバーズ上でできると良いといった意見があった。
- ・ 結果 1) メタバーズが自己開示に有効的な面や、実施・参加のハードルを下げることができた。 2) 端末や通信環境など参加者の環境によって個別のサポートが必要になることに課題がある。

### (イ) メタバーズ相談空間体験会

- ・ 内容：ひきこもりの方の親を対象に、メタバーズ空間に集まり「ひきこもり」の悩みを共有する。メタバーズ上における自己開示の有用性を検証する。

- ・ 場所：豊田めっちゃバス
- ・ 参加者：4名
- ・ 良かった点：メタバース空間でイベントの実施が出来た
- ・ 改善点：誰が発言しているのかわかりにくいので、話している人がわかると良い。
- ・ 結果：1) 体制が十分に設計できなかった。2) 対象が60～70代であるため、入室からの設計で本質にたどり着く前の段階でうまくいかなかった。3) 満足度が低かった

(ウ) メタバースで世界に飛び出そう！

- ・ 内容：不登校児童生徒が支援員と一緒に専用機器を装着し、メタバース空間(VRChat)を体験する。メタバース上の様々な空間を巡ることで、将来的なコミュニケーションの苦手な不登校児童生徒向けメタバース施策の有用性を検証する。
- ・ 場所：パルクとよた
- ・ 参加者：児童3名
- ・ 感想：「楽しかった。現実の世界とメタバースで話しやすさの差異はなかった。また体験したい」「現実の世界と比べて話しやすかった。国内旅行などに行ってみたい」「楽しかった。現実の世界と比べてアバターの方が話しやすかった。今度はアトラクションに乗ってみたい。また体験したい」など、普段聞かない声がきけた。
- ・ 結果1) 参加した児童生徒からは概ね好評な感想が得られただけでなく、職員からも好意的な結果が得られた。2) 事前準備において一定の課題が残ったものの、実証実験自体は良い結果を得ることができた。(新しいコミュニケーションのツールとなる可能性あり)

## 【メタバースの特徴まとめ】

- ・ 社会情勢：メタバースは新技術で発展領域であるが、今後重要な社会インフラになると予想される。
- ・ コスト：新技術の領域で精密な空間を構築すると膨大なコストがかかる。汎用性が高く、仕様変更など柔軟に対応でき、部署や機関など横断的な空間を意識する。
- ・ デバイド：年齢に応じて差はあるが、ビジョンを軸にメタバースに触れられる機会を増やし、理解促進に努める。メタバースに関するデバイドは、部屋を貸し出すことと同様に空間の貸し出しを行い、理解促進に努める。
- ・ ノウハウやルール構築：職員が当日のイベント運営の仕方について、豊田市のメタバースを使い続けることでノウハウを蓄積し、ルール構築を行い簡単にイベント企画ができるようにする。
- ・ メタバースならではの：自分の分身となるアバターとなり、コミュニケーションを図ることで、新たな課題解決につながると考える。(自己表現における不安が少ない)

## 浅井農園 視察報告書

### 1. 視察日時

令和7年11月5日 10時から

### 2. 視察先

株式会社浅井農園（三重県津市）

### 3. 出席者

島田泰美

石田武史

高間專逸

野村和宏

芳賀理己

藤城正興

### 4. 概要

浅井農園は、明治創業の植木生産業を母体とし、平成20年（2008年）に現代表・浅井氏が就任後、ミニトマトを中心とした施設園芸農業へ事業転換を行った研究開発型農業法人である。従業員は約120名（グループ全体約500名）、平均年齢34歳と若い組織で、研究開発を重視した現場主導の経営が特徴である。

### 5. 主な取組内容

#### （1）ミニトマト事業

生産面積13haと国内最大級規模。海外種苗メーカー（主にオランダ）の品種を導入・試験栽培。光合成データの見える化、AI環境制御、自動搬送ロボットなどスマート農業技術を積極導入。LED照明を全面使用する国内最大級のハウス（4ha）を運営。

#### （2）果樹（キウイ）事業

ゼスプリ社（ニュージーランド）と共同研究を実施。三重県伊勢市玉城町の遊休農地を再生し、防風・防獣ネットを備えた果樹園を整備。台風・気候変動や鳥獣害への適応と生産性向上を両立する技術開発を推進。

#### （3）企業連携・再エネ利用

2013年：植物油メーカー・三井物産等と連携し、工場廃熱を利用した温室暖房モデルを構築。

2018年：デンソー社と合併会社「アグリッド」を設立し、自動ロボット等の開発を進める。  
2026年より、北海道伊達市で温泉熱を活用したトマト生産を開始予定。

## 6. 特徴と成果

生産データと経営管理を一体化し、科学的根拠に基づく農業経営を実現。  
若手人材を中心に組織を形成し、研究者と現場が連携した実証型 R&D 体制を構築。  
地域企業・大学との協働により、新たな農業技術・流通モデルを開発中。

## 7. 問題意識

人材不足、農業系の大学を出ても受け入れ企業が少ない→研究職等新しい形の雇用で農業への就職、それと同時に現場もあるので従来の農業に憧れている人も入りやすい。  
収穫ロボットはコスト面を含めてまだ本格運用難しい→時給が2,000円を超えてくる水準になると見合うようになり、その時代は必ず来るのでそこまで準備はしっかりする。現段階で日本の法律では必ず人がついていないといけないので、法改正への提言は必須となる。  
土地の集積に関して、一企業がやるというのは現実的ではない→市町村・事業者・中間管理機構・県（道）、そして民間が協力して産地化をはかるべき。そうしないと歴史がある企業でも必ず反発があり難しい。  
電気代高騰により従来のLEDトマト栽培もコストの見直しを図らなければ品代に転嫁できない状況がある為、効率よく且つ戦略的にLEDライトを活用する方法を日夜研究している。企業との連携により、栽培面積や品目を拡大しているところであるが、投資と回収とのバランスがまだ取れていないため、継続研究やコスト回収を段階的に行えるモデルが急務であり、社員一丸で取り組んでいる。

## 8. 所感

浅井農園は、従来の経験や勘に頼らない「データ駆動型農業」を確立しつつある。  
また、再生可能エネルギーの活用や果樹への挑戦など、環境対応型の農業モデルとしても日本屈指の農園であり注目される。北海道伊達市に於いて来年栽培をスタートする新たな取り組みは、江別市においても、若手育成・スマート技術導入・エネルギー循環型施設園芸・学校や企業等との連携の推進などにおいて、同社の取組は有益な参考となる為、伊達市の農場完成時には是非視察をして、江別市の農業に寄与したい。

## 《兵庫県西宮市》

### 1 西宮市の沿革

西宮市は兵庫県の南東部、大阪と神戸両市のほぼ中央に位置し、南北に長い市域は北部の山地部と南部の平野部で構成されています。

古くから門前町や宿場町として栄え、伝統産業の酒造は江戸時代に「宮水」が発見され、「灘の生一本」として全国に知られるようになりました。

「文教住宅都市」として、豊かな自然や恵まれた地理的条件、交通の利便性、数多くの教育・文化施設など優れた特性を有しています。

阪神・淡路大震災で壊滅的な打撃を受けましたが、その後の懸命な復興により、まちはこれまで以上の賑わいを見せています。

総人口481,576人・世帯数221,637世帯

男性 223,070人

女性 258,506人

面積100.18km<sup>2</sup>

### 2 放課後キッズルーム事業の取組について

#### (1) 取組の概要について

西宮市における放課後事業とは、

1つ目に福祉的取り組みとして

①留守家庭児童育成センター（学童保育）→就労家庭支援・生活の場を提供。

②児童館→子育て支援・遊び場の提供。

2つ目に教育的取り組み。

③放課後子ども教室→地域との交流・体験の場を提供。

④放課後キッズルーム事業→遊び場・学びの場の提供。

放課後子供教室とはどのような事業なのか？

地域の方の参画により、放課後や週末に勉強やスポーツ、文化活動など多様な体験活動や地域住民との交流機会を提供する。

市の関わりは？

・地域団体（青少年愛護協議会）に委託運営

・活動に対する助言や情報提供

放課後キッズルームの事業について

どのような事業？

小学校の教室や運動場を活用して、放課後における自由で安全な遊び場や学びの場を提供

## 市の関わりは？

- ・行政主導で実施
- ・見守りサポーターの確保と学校や地域との連携を模索
- ・育成センターとの調整
- ・会計年度任用職員のコーディネーターを配置し、見守りサポーター、学生サポーターをコントロール

## 放課後キッズ（直営型）

目的 児童が自由に過ごすことのできる居場所を提供し、児童の育ちを支援する。

## 育成センター（学童保育型）

目的 就労等で保護者が不在となる家庭の児童を保育し、児童の健全育成を図る。

## 開設日

放課後キッズ（直営型） 授業日・夏季休業期間

育成センター 授業日・土曜日・長期休業期間・振替休日

## 利用時間

放課後キッズ（直営型） 授業日：下校時～16：30 夏季休業期間：午前中

育成センター 授業日：下校時～17：00（19：00まで延長可）

休業日：8：00～17：00（19：00まで延長可）

## 活動場所

放課後キッズ ランチルーム・図書室等の屋内施設を学校と共用で使用（原則専用室はなし）・運動場

育成センター 育成センター専用室・運動場等

## コーディネーターの業務内容（会計年度任用職員・教員免許必要）

- ・学校との調整
- ・見守りサポーターの管理
- ・学校支援業務（授業補助・学校行事の準備や片付け）

## 見守りサポーターの活動内容

- ・安全な事業実施のための見守りや声かけ
- ・子どもたちの危険な行為や迷惑行為に対する注意
- ・事業の準備や片付けなど

## なぜこの事業を進めるのか①

- ・子どもの育ちの課題
  - ・コミュニケーション力の低下
  - ・体力の二極化
  - ・体験活動不足
- ・子どもを取り巻く環境の課題
  - ・自由な遊び場の減少
  - ・留守家庭の増加
  - ・放課後の犯罪被害の多発

## なぜこの事業を進めるのか②

- ・豊かな遊びの中で、子どもたちはたくさんのことを学び、たくましく成長していくのでは。例) 協調性や主体性、忍耐力、トラブルへの対応力など
- ・地域の中で放課後に安心できる居場所が求められています。
  - ・子どもにとって学校は安心できる居場所
  - ・そこに大人の見守りがあれば保護者も安心

### (2) 取組の成果について

- ・事業実施状況は？
  - ・屋外では学年の違う子どもどうしの遊びが生まれました。
  - ・屋内では自ら進んで宿題に取り組む姿勢も見られました。
  - ・屋内では子どもたちの間ではボードゲームが大人気。

### (3) 学校の協力について

- ・教職員の負担は？
  - 教職員は事業の運営に参加しません。
  - 学校への連絡は控えるなど、毎月発行する「おたより」でお知らせ。

### (4) 取組の課題及び今後の展開について

総合的な放課後施策を目指して展開しており、学童保育育成センターとは別建てであり、育成センターの待機児童対策にも繋がっている。

さらに委託型の放課後キッズルームを設置し事業の拡大は図っている。

## 直営型と民間委託型の違い

### 直営型

- ・申し込み不要 →
- ・学校の下校時刻まで →
- ・長期休業期間は午前のみ →
- ・市の直営 →

### 委託型

- ・参加申し込み制（保険料800円）
- ・17時まで実施
- ・8時～17時まで実施
- ・事業者へ委託

現在41校中33校にて実施、うち直営型24校、委託型9校

待機児童対策と同時に、子どもたちに安全な遊び場の提供と様々な学年の子どもたちが縦割りで活動することで年上の子が年下の子の面倒を見たり、一緒に遊んだりという体験が貴重な体験となり、喧嘩などのトラブルにも大人がすぐに介入せず様子を見て子どもたちの学びとすることに重点をおいている。

子どもが経験を通して成長を促す施策となっており、放課後の時間を学びにつなげる子ども本位の居場所作りだと感じました。

学童保育の待機児童対策とも言えますが、内容的には自立を促すものであり江別市においても今後このような施策の検討が必要と考えます。